

第12回入間市指定管理者候補選定委員会会議録

- 1 日 時 平成30年10月4日（木）午後1時30分～午後2時40分
- 2 場 所 第4委員会室
- 3 出席者 委員長 副市長 友山 宏一
委 員 企画部長 加藤 保夫、総務部長 田雑 弘章、健康推進部長 晝間
昭彦、永瀬 久、小林 由利、押木 正己
所管課 スポーツ推進課長 齋藤 忠士、主幹 今井 文香、主事 本田 元紀
事務局 企画部次長 浅見 嘉之、企画課長 玉井 栄治、主幹 亀田 一生、
副主幹 齋藤 謙次郎
- 4 欠席者 なし
- 5 対象施設 入間市体育施設
- 6 議 事

議 題

(1) 応募者によるプレゼンテーション

プレゼンに先立ち事務局から、次の説明を行った。

応募法人の資格要件のうち暴力団関係者の有無について、事務局において県警に照会したところ、応募のあった法人について、「該当は無い」との回答を得ている。

プレゼンについて、1法人あたり45分とする。時間配分は、プレゼン25分、質疑応答20分とする。仮にプレゼンが20分で終了した場合には、質疑応答を5分増やし、25分とする。質疑応答が早く終了した場合、45分に達していなくてもその時点で終了とする。

採点等については、5～1点の5段階で採点を行い、審査票は、10月10日までに企画課へ提出願いたい。

公益財団法人 入間市振興公社 ※応募法人は1法人のみ

応募書類を基に入間市体育施設に関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委 員 : ボランティア登録者制度の創設とあるが、登録者に何かメリットはあるのか。また、営業担当者の設置について、ターゲットは絞られているのか。

応募者 : 現状、体育施設のボランティアについては、教室事業で一部実施している。これを雪かきや落ち葉拾いなどの施設管理面にも拡げること考えている。登録者の直接的なメリットとは言えないが、自分たちが普段使用している体育施設への愛着の醸成により、地域や団体との連携を図りながらより良い施設の提供をしてい

きたいと考えている。また、営業についてターゲットを絞る考えはない。広く市民に施設を知ってもらうことも含め活動の準備をしている。

委員：体育施設として施設の良し悪しが直接ケガにつながるケースが多いと思うが、現状施設の危険箇所の把握はしているのか。また、各団体からの聞き取り等取組について具体的に教えていただきたい。

応募者：危険箇所の把握については、毎日管理人が危険箇所を記したマップを参照しながら巡回を行っている。利用者からの聞き取りは、窓口に設置しているアンケート等から把握している他、年1回大会主催者を集めた連絡調整会議において聞き取りを行っており、さらなる危険箇所の把握に努めたい。

委員：公社が管理運営する施設の満足度の説明があつたが、多くの施設で90%以上の高評価を得ている中、体育施設の清掃については88%となっている。この点についてどのように考え、改善していくのかお教えいただきたい。

また、利便性への配慮として、「使われなくなった大会予備日の有効活用」とあるが、具体的にどういうものか。

また、様々な事業提案がされているが、提案された収支計画書の予算内で実施できるのか。それとも別途予算が発生するものなのか。

応募者：満足度の低さについては、利用者のアンケートからは、施設の老朽化に対する意見が多かった。その点については振興公社でできるものは修繕していき、費用が莫大な修繕や設備の更新については市と協議をしていきたいと考える。次に「大会予備日の有効活用」は、現状、屋外施設での大会運営においては、雨天のための予備日を各大会において設定している。本番が晴天により開催できた場合には予備日が空いてしまうことになるが、その場合はホームページにて開放した情報を提供している。

自主事業の経費については、助成金等活用して実施していきたいと考えており、新たな費用負担を求めることはしない。

委員：新規事業を多く提案いただいているが、人員の確保はできているのか。

応募者：様々な事業を提案しているが、職員にはこれまでも様々な事業を実施してきたノウハウや経験があるという点、また、勤続年数も長いことから効率的な実施方法を熟知している点から、職員同士で協力して実施していきたいと考えている。さらに、各連盟の協力をいただきながらスポーツ事業や市民スポーツまつりを実施していきたい。

委員：自主事業の内容はどのように決めたのか。アンケート結果等を反映させたのか。また、事業の実施にあたってのプロジェクトチームはあるのか。

応募者：すべての事業の後には、必ずアンケートを実施しており、その中で「今後どのような事業を望むか」等の設問により需要を把握した。また、市民スポーツまつりのような大きな事業については、プロジェクトチームにおいて企画したものであり、実行委員会を組織して開催したいと考えている。実行委員会を組織していく中で各種協会等の協力を仰いでいきたい。

委員：感想にはなるが、昨年度の選定委員会のプレゼンにおいて、公募となった博物館や児童センターの応募団体から提案を受けた自主事業の内容と比較すると、事業の厚みが感じられない。

応募者：貴重なご意見いただき、ありがとうございます。公社としての事業の運営、計画としてちゃんとしていきたいと思う。

委員：体育施設職員の時間外勤務時間数について教えていただきたい。

また、経費の削減の提案として、自前での修繕とあるが、本来プロがやるべき修繕を職員がやることについて、慣れない作業もあるかと思うが、危険性や労災等に対する職員の安全確保をどう考えるか。

また、職員総出でプールの床の塗装をしたとのことだが、職員全員で実施するのは全体から見ると効果的ではないのではと感じるがいかか。

応募者：時間外勤務時間数については月30時間を超えないようにしている。ただ、昨年度体育館の改修工事等により若干超えることもあった。

職員の安全確保については、自主修繕はあくまで軽微なものについてのみ実施しており、プロがやるべき修繕については実施しておらず、安全確保できていると考える。

プールの床塗装等の修繕については、効果額を算出したわけではないが、委託するよりは経費の削減につながっていると考える。また、壊れた箇所を職員がすぐに直せるというメリットもあると考える。

委員：質の高いサービス提供として、サークル運営アドバイザーの設置とあるが、どのような資格を持った方を想定しているのか。

また、事件・事故が発生した場合の対処等についてお聞かせいただきたい。

応募者：サークル運営アドバイザーについては、新たな人材ではなく、既存の職員による対応を考えている。内容としては、サークルが長く続くよう事務的なアドバイスや運営上のアドバイスを考えている。

事件・事故については、大前提として未然に防止することが大切と考えており、そのための点検体系を確立させた。日常点検、定期点検、臨時点検、緊急点検により、事故を未然に防いでいきたい。万が一発生した場合には、情報を一元化し、

市と連携し対応していきたい。

事務局：以上で質疑応答を終了とさせていただきます。

(2) スポーツ振興課からの意見感想

委員長：所管課として意見、感想があればお願いしたい。

所管課：まず、所管課として指定管理者に期待することは、安全・安心・快適な施設の提供や適切な管理運営、法令遵守はもちろんだが、民間ならではの視点と発想力で体育施設を活用したスポーツ・レクリエーションの魅力を、広く市民に周知していただきたいと考える。

振興公社の企画についての感想は、長年の運営実績をふまえ、さらに推進していくといった意欲が伺えた。また、スポーツ推進計画に沿った、実現性の高い新規事業が提案されており、評価に値するものと感じた。

例えば、利用者サービスの向上を目的とした「スポーツ相談窓口」の設置、スポーツ推進計画や東京オリンピック・パラリンピック等を見据え、多様な市民を対象にした事業企画、市民ボランティア登録制度の創設、営業担当者の設置、民間の助成制度の活用など、新たな取組が挙げられている。一方で、提案された事業の中には、関係部署や公民館等で実施しているものもあり、その調整や住みわけが必要と思うところもあった。また、長年の管理実績では、再委託先が同じ業者であることが多く、チェック機能についての検証が必要であると考えます。

今後、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックと、大規模なスポーツイベントが予定され、市民にスポーツの魅力を普及し、スポーツ人口を根付かせるには絶好の機会となる。それらをふまえて、これまでの管理運営面での実績とともに新たな取組にも期待したい。

7 その他

審査票の提出と次回の日程について

10月10日までに審査票を企画課に提出していただきたい。次回は10月10日に扇台福祉作業所及び黒須保育所に関する指定管理者候補選定委員会を開催する。体育施設に関する委員については、次に出席いただく委員会は10月17日となる。

以上